

私は最近、甥や実習先の児童など、子どもと関わる機会が増えてきました。その子ども達と関わっている中で、教育・しつけなどにとっても興味が湧いてきたと同時にその必要性も強く感じるようになってきました。

私には現在9ヶ月と2歳半の甥がいます。2人とも元気いっぱい、実家に帰ると常に笑い声が絶えず、家族みんなで彼らの成長を見守っています。私は末っ子なので、今まで年下の子を世話するといった経験をしたことがありませんでした。どうやって接したら良いのかわからず、初めはとても困惑しました。けれど、生まれてきた彼らを見ている内に、何か胸の内側から暖かいような、くすぐったいような気持ちが私の中にあることに気がつきました。一般的に言われている“母の無償の愛”というものに少し近づけたような気がしました。けれど、彼らと接する時はそんな穏やかな気持ちだけではありませんでした。彼らは夜泣きや頻繁なおむつ交換など、私の都合なんてお構いなしに要求してきます。「眠いのに...」「やっとさっき換えたばかりなのに...」といった気持ちが出てきて、イライラしてしまうことも多々ありました。大学の授業で児童虐待を学んでいるときに「何で自分の子どもなのに殴ったりできるんだろう。」「大人なんだから、子どもと一緒に感情的になっちゃダメでしょう。」と書いていたのですが、実際に育児を経験してみると、想像以上に負担が大きいことを痛感しました。母親である姉は、「ここで育児していると、必ず誰かが手伝ってくれるから、自分だけですべてを背負い込まなくて済む。イライラしてきたら、誰かに代わってもらって気持ちを落ち着かせることができるからとてもいい環境だと思う。」と話してくれました。私の家族はみんなで負担を軽減し合っているのです。子どもの前では常に笑顔でいることができます。そんな私たちの表情を子ども達はよく見てくれているのか、彼らはいつも最高の笑顔を私たちにプレゼントしてくれます。それを見て、私たちはまた笑顔になる。とても良い笑顔の循環だと思いました。しかし、このように上手くいく家庭ばかりではないのが現状です。核家族化など、家庭の問題はより複雑化してきており、育児しにくい環境におかれている家庭が増えてきていると思います。

私は10月から児童相談所で実習をさせて頂いており、これまでに様々な家庭から保護された児童と接してきました。相談所で保護される理由は養育困難であったり、虐待であったり、非行であったり本当に様々です。そして、一時保護所（保護された児童が一時的に生活する場所）に入所してくる児童の様子も様々です。イライラしている子もいれば、友達と楽しそうに遊んでいる子もいます。けれども、どの子ども達にも“愛されたい”という寂しさがあると思いました。「ママに会いたい。」と泣く子どもや、友達とケンカをして大人の関心を引きたい子どももいます。私はどの反応も“私を愛して”という感情の表れだと思います。親の愛情が1番必要な時期に、親と離れて生活している彼らは、精神的にとっても不安定です。そんな彼らと接する中で、私ができることは何だろう、私がすべきことは何だろうと思いました。

そこで、私はこの子達が全員私の甥や姪だったら...と考えました。甥には無条件でかわいい・愛しいという感情が湧き、同時に、人として自立した人間になって欲しいという願

いもあります。だから、何かできた時は誉めて、危ない時や人に迷惑をかけた時や叱ります。精一杯愛情を注ぎ、誉めたり叱ったりする事が大事なのだと思います。私は今まで、誉められる事に愛情は感じて、叱られる事に愛情を感じることはありませんでした。叱られる時は怖いし、悲しい思いをするからです。しかし、いざ逆の立場になると、叱ることは愛情だという事に気がつきました。私が甥を叱るときは、甥が憎いからではありません。周りの人と良い人間関係を作って行って欲しいから、自分の力で自分の人生を生きて行って欲しいから叱るのです。憎いどころか、かわいくて仕方ないから叱るのです。このことに気付いてから、今まで私が叱られたことは愛情だったということに気がつきました。親の愛情を全く気付かなかったことが恥ずかしくなると同時に、親に対してとても感謝しています。

このように叱ることは愛情だと気がついてからは、保護所の児童に対してもしっかり誉めて、しっかり叱れるようになってきました。今までは「人の子どもだし、叱れない。」「叱ったらかわいそう。」だと思っていましたが、そうやって叱らない方が子ども達は愛情がもらえず、かわいそうだと思います。しかし、叱るという事は誉める事よりも難しいなど感じるようになりました。誉められる時は今まで自分が頑張った事・できた事に対して誉められるので、子どもは自分の頑張りを噛み締め、肯定的に受け取る経験ができます。しかし、叱られる時は、何故自分は叱られているのかを振り返り、今までの行動を否定されることを経験しなければなりません。子どもにとっては非常に大きなストレスになると思います。それと同時に、叱る大人の方も大変エネルギーを消費しなければなりません。なぜならば、叱られている理由をしっかり説明し、子どもに納得させなければならぬからです。

保護所の児童と外に散歩に出かけるときに、友達の靴が履きたいと言い、靴をお腹に抱え込んだまま泣き出してしまったAちゃんがいました。すると靴を取られてしまったBちゃんも一緒に泣いてしまいました。まず、私は「その靴はBちゃんのだから返して。」と言ったら、Aちゃんは首を横に振って泣きました。次に私は「その靴はBちゃんの靴で、Aちゃんが持ったままだとBちゃんは靴が履けなくて、散歩に行けなくて困るの。だからBちゃんに返して。」と言いました。しかし、Aちゃんはまだ首を横に振り続けています。正直、私は困ってしまいました。どうやったらわかってくれるだろうと悩んだ末に、一言付け加えてもう一度説明することにしました。「Aちゃんは、Bちゃんの靴がかわいかったから履きたかったんだよね。でも、Aちゃんが靴持ったままだと散歩に行けないからBちゃんに靴を返して。」すると、Aちゃんは小さく頷き、Bちゃんに靴を返しました。ここで私が付け加えたのは、“Aちゃんの気持ち”です。Aちゃんは、自分の気持ちを私が理解していることがわかったら、私の説明に納得してくれました。この人は私の気持ちを理解してくれているという安心感が生まれたからだと思います。このように、叱る時には何故いけないのかを説明することと、本人の気持ちを口に出すことが大切なのだと思います。

しかし、街中などで親が子どもを叱っている場面に遭遇すると、そのことを実践してい

る人がとても少ないと感じました。店でお菓子が欲しくて床で駄々をこねて泣いている子どもがいた時に、その母親は「だめ！お菓子は絶対買わないんだから！早く立ちなさい！」と子どもを引っ張っていました。けれど、子どもは更に激しく泣き、母親も更に大声で怒鳴っていました。しかし、ここで「お菓子好きだものね。食べたいよね。でも、もうすぐご飯だからお菓子は食べれないのよ。」と言ってみたら、もしかしたら子どもの反応は変わっていたかもしれません。

現在は、多くの方が時間に追われる生活をしており、子育てをしている親も子どもと向き合う時間が減っていると思います。そうすると子どもの良い面だけに注目してしまったり、悪い面だけに注目してしまったりと偏りが出やすくなる可能性があります。私は誉めることと叱ることは同じ位大切な教育だと思います。子どもの色々な面に接してみて、誉める時は愛情を持って精一杯誉めて、叱る時も愛情をもって精一杯叱る姿勢が必要だと思います。私は甥や実習先の児童と関わる中で、育児や教育に近道はなく、相手とじっくり向き合うことが必要なのだと学びました。将来、母親になるための貴重な経験をしているなと感じます。これからも、彼らと接する時は精一杯の愛情を持って、誉めたり叱ったりしてお互いに成長し合っていきたいです。